

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームよしの村

作成日 平成28年12月19日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	家族と本人との関係性によって、家族と事業所との連携の取りやすさに差があると感じている。家族にも個別性がある点を職員全てが理解する必要もある。	本人と共に支え合う家族との関係：職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	状態変化の報告を適宜行い、医療面の理解促進と協働を働きかけたい。また、行事の案内、外出などの同行を呼びかけ、面会の機会を増やせるようにする。	10ヶ月
2	23	中長期的な暮らし方について、意向を引き出すことができていない。また、本人の中にある潜在的な負の感情や希望について、検討する機会が少ない。	思いや意向の把握：一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	日々のかかわりにおいては、意思確認と意思尊重、選択できる環境作りを行う。同時に、生活暦などを含めたアセスメントをチームで共有し、本人本位の意向の検討を徹底する。	10ヶ月
3	27	介護計画の実践状況を記録するようにはなったが、気づきや工夫の記録に不足が見られるようになった。個別の生活目標の意識ができていないと考えられる。	個別の記録と実践への反映：日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	P D C A サイクル(何を意図して、実行し、観察した結果を、計画見直しに反映すること)を意識した日々のケア実践のために、勉強会を行い、記録内容の向上と個別の目標を達成する支援に取り組む。	10ヶ月
4	36	前年の達成状況としては「どうされましたか？」とまず受け止め、認知症の方ではなく一人の人として向き合うなど、否定せず対応することが意識されるようになった。今後さらに、排泄・入浴・更衣等で環境的な配慮や声掛けをより徹底させることが必要。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保：一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	まず受け止める(受容)姿勢を全員が確実に実行する。否定や指導的態度ではなく、相手の気持ちを感じ(共感)、それを伝えることで一人ひとりの尊厳が守られているという実感を持ってもらう。同時に、プライバシーに配慮した介助の徹底、および、個人個人の情報共有は共用の場で行わないよう、職員間で気づいた時に注意し合う。	10ヶ月